

# 生徒・進路指導論（小）

## 授業概要

第4回目までは、主として初等教育における生徒指導の理念と意義を講義する。また児童理解の概念について学ぶ。その基礎的知識をもって、第5回から第9回までは、「生徒指導」に関する事例研究を行う。さらに、第10回から第14回までは、「キャリア教育」に関する事例研究を行う。また第15回は、今後の生徒・進路指導の課題を検討することで、全授業を振り返る作業を行う。

## 授業計画

|      |                                                      |
|------|------------------------------------------------------|
| 第1回  | 授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明                              |
| 第2回  | 生徒指導の理念を考える                                          |
| 第3回  | 戦後の「教育問題」を概観する                                       |
| 第4回  | 今日の「教育問題」を概観する                                       |
| 第5回  | 生徒指導の理論を学習する                                         |
| 第6回  | 生徒指導の事例研究①（いじめ）                                      |
| 第7回  | 生徒指導の事例研究②（小1プロブレム）                                  |
| 第8回  | 生徒指導の事例研究③（非行・虞犯・犯罪）                                 |
| 第9回  | 生徒指導の事例研究④（教師の不適切な行為）                                |
| 第10回 | キャリア教育の理論を学習する                                       |
| 第11回 | キャリア教育の事例研究①（学級経営の中のキャリア教育）                          |
| 第12回 | キャリア教育の事例研究②（学習指導要領が示す生き方の追究）                        |
| 第13回 | キャリア教育の事例研究③（初等教育における汎用的能力）                          |
| 第14回 | キャリア教育の事例研究④（初等教育におけるキャリア教育と中等教育及び高等教育におけるキャリア教育の接続） |
| 第15回 | 今後の生徒・進路指導の課題                                        |
| 第16回 | 筆記試験                                                 |

## 到達目標

学校における「生活指導」と「進路指導」とは、現代社会の明確な理解なしには成立しない。教職を志す学生にとっては、個人の「思い込み」としての社会認識から解放されることが必要である。その上で、児童の抱える「問題」に対し、どのような対応をすべきかをしっかりと考えられる態度を身につけなければならない。したがって、この授業では、現代社会の理解、生徒・進路指導の理念、児童の抱える「問題」に対応できる知識と態度の涵養、これらを到達目標とする。

## 履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

## 予習復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、参考文献等を読んでおくこと。

復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

## 評価方法

受講態度 10%・提出物の内容 10%・学期末のテスト 80%を基本とし、総合的な観点で評価を行う。教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行っている。  
なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。  
評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

## テキスト

毎回プリントを配布する。